

新たな観光の核づくり認定事業

大山魅力再発見「平成大山講」プロジェクト
～体感！悠久の歴史・安らぎの霊峰大山～

基本計画書（改定版）

平成30年4月

平成大山講プロジェクト推進協議会

◇ 新たな観光の核づくり実現に向けて

大山街道の両脇に並ぶ先導師旅館は、玉垣が築く造形により特徴ある歴史的町並みを形成している。沿道には、かつて、大山参詣の折、禊を行った瀧がほどよい間隔に落水し、谷あいの街道に心地よいリズムをつくり出す。その音色は癒しの世界につながる。さらにこうした風情は、旅館を飾る板まねきなどと相まって、街道全体を江戸情緒あふれる歴史空間として特徴づけている。これは庶民の生活文化、歴史的芸術でもあり、大山街道には、こうした歴史が今に生きつき、さらに街道全体が「町並み・街道博物館」として、位置づけられる。そこには、今でも人を引きつけるマグネット力が息づいている。

対象地域は、丹沢大山国定公園に指定され、その豊かな自然環境に加え、古くは江戸、明治、大正、昭和と各時代に蓄積されてきた歴史的、文化的遺産が集積している。こうして長い歴史に培われ多くの人を魅了してきた歴史的観光地「大山」の地域ならではの資源＝魅力を再発見・再評価し、活用・発信することで、かつて「大山講」でにぎわった江戸期のように、多くの人々が訪れ賑わいある観光地づくりを進める。そこでは、人と人との出会い、ふれあい、交流を軸に、おもてなしの心で観光客を受け入れる。そのため、新たな気配りの心として、グローバルな接遇を身につけ、外国人観光客に対し、日本文化再発見の先駆地とし、歴史体験と安らぎの場として国際観光地「大山」の実現を目指す。

また、現在県道 611 号（大山板戸）、通称「大山バイパス」の整備も進められ、将来的には新東名、国道 246 号バイパスの整備、さらには、(仮称)伊勢原北インターチェンジの建設も予定されるなど、交通条件の飛躍的な向上が見込まれるほか、平成 27 年には「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」改訂第 4 版に大山等が紹介され、さらには、平成 28 年に「大山詣り」のストーリーが日本遺産に認定され、日本遺産事業との連携によって認知度のさらなる向上も図られることから、こうした機会を捉え、新たな民間事業者からの投資を促進する方策なども検討し、「平成大山講」プロジェクトの実現を目指す。

目指す観光の将来像

■ 何度も訪れたい大山

豊かな自然、歴史・文化が集積された街並みなど、地域が持つ魅力を最大限に生かし、ホスピタリティがあふれる、何度も訪れたい大山を実現します。

■ 外国人を引きつける魅力あふれる大山

外国人観光客を引きつける大山ならではの魅力づくりと効果的な情報発信を行い、快適に旅行を楽しめる大山を実現します。

■ 観光で活気溢れる大山

多くの観光客が大山を訪れることや、地域資源の再評価を通じて住民が誇りや生きがいを持つことで、活気ある大山を実現します。

◇ 地域が持つ魅力

○ 大山地区

自然環境と歴史・文化を求めて多くの観光客が訪れる“大山”



丹沢大山国定公園に指定されている豊かな自然環境と多彩な歴史・文化を有しており、また、国の重要文化財に指定されている不動明王や二童子像を所蔵する大山寺、県の重要無形文化財に指定されている巫女舞や倭舞、約300年の伝統を誇る火祭薪能が行われる大山阿夫利神社、さらに大山周辺のハイキングコースには、県内外からの多くのハイカーが訪れ、山内には宿泊施設や飲食店が立ち並ぶ門前町が形成され、多くの観光客で賑わう。



○ 日向地区

恵まれた自然環境の中に、多くの歴史・文化資源が集まる“日向”



関東地方有数の古刹であり、また、日本三薬師の一つである日向薬師は、その歴史・文化的資源や豊かな自然環境から大山とともに「かながわ景勝50選」に選ばれている。宝城坊本堂には9件の国の重要文化財が所蔵され、毎年行われる「本尊開扉」、「初薬師本尊開扉」、「春季大祭」、12年に一度行われる「寅年本尊開扉法要」などの伝統行事は、県内外から多くの参拝者が訪れる。約350年ぶりの「平成の大改修」が実施されて、平成28年7月に完成した。また、周辺は、彼岸花の名所として「かながわの花の名所100選」に選定され、秋の季節には多くの観光客で賑わう。



○ 蓑毛地区

風情ある大山の門前町、歴史ある建造物の中に多くの仏像が集まる“蓑毛”



秦野は、伊勢原と並んで大山の麓に栄えた町で、蓑毛は大山への入口にあたっている。蓑毛は江戸時代から明治時代にかけて秦野の発展の重要な一翼を担い、庶民の大山信仰集団、すなわち大山講を導く「御師の郷」として、静岡、山梨方面から多くの大山信徒を招いてきた。蓑毛の大日堂は、奈良県の東大寺大仏造営に尽力した行基（ぎょうき）によって、742年（天平14年）に開かれたと伝えられており、本堂には、平安時代後期の作でヒノキの一本造り、像高175cmの座像、「大日如来像」があり、県の重要文化財に指定されている。この像の両脇には、四体の如来像もあるため、別称で「五智如来（ごちによらい）」とも呼ばれており、特に、完全な構成をもった五智如来像は東国では珍しいもので、この地で平安の密教文化が開花したことを物語っている。このように蓑毛地区は、大山の観光を魅力づける重要な地区となっている。

○ ヤビツ峠

癒しを求めて、多くの登山客、ハイカーが集まる“ヤビツ峠”



丹沢山地内で唯一の南北をつなぐ一般車両通行可能な峠であり、また、東京から最も近くにある峠の1つであるため、自転車ヒルクライムのメッカとしても人気が高い。かつて甲斐国の武田氏と小田原の後北条氏がこの地で争いを繰り広げ、そのときに用いられた「矢櫃」（やびつ、矢を入れる箱）が峠道の改修の際に大量に発見されたことから、「ヤビツ峠」の名で呼ばれるようになった。周辺には豊かな自然環境が広がり、多くの登山客、ハイカーで賑わう。

○ 七沢地区

丹沢大山東麓に広がる豊かな自然と温泉郷“七沢”



七沢は、棚田の景観や地元の食材を生かした伝統料理など、大山山麓の原風景と里山の文化が残されている。良質の強アルカリ性源泉に恵まれた温泉郷が点在し、周辺は癒し効果の認められた森林セラピー®基地にもなっている。東丹沢の登山拠点の一つでもあり、七沢から唐沢峠、大山山頂へと続く尾根沿いのトレッキングルートは、関東平野や相模湾の大パノラマを一望。家族連れでにぎわう七沢森林公園など、初心者向けのハイキングコースも多い。

○ 対象地域全景



◇ 2013（平成 25）年度～2017（平成 29）年度計画の取組の総括

協議会は、計画に位置づけたアクションプログラムに基づき、構成団体や民間企業と連携し、観光資源の磨き上げ、ホスピタリティの向上、地域の魅力の情報発信、受入体制整備などに取り組んできた。

5年間の計画期間の中で、着実に事業を実施し、それぞれの事業が計画的に着手され、かつ継続的に実施がなされており、結果として、入込観光客数が増加するなど、一定の成果を上げ、計画の目標値である「大山・日向地区の観光入込客数6万人の増」を計画期間中の平成28年度に達成した。

■計画目標値（平成25年度～29年度）

平成24年度 104万人⇒平成29年度 110万人
(大山・日向地区の観光入込客数6万人の増)



■実施結果

平成28年度 111万人

今後は、引き続き入込観光客数の増加を図るため、継続的に実施され、定番化した事業内容の磨き上げを図っていくとともに、より効果的・効率的に実施できるよう、検証を進めていく必要がある。

また、計画期間中に追加された新たな事業と既存事業間で連携を図り、更なる拡充に努めるだけでなく、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催などを契機として、外国人向けのプロモーションを強化し、受入体制の整備をさらに進めていくことが求められる。

現状は、日帰り客が増加する一方、宿泊客は減少していることから、観光資源のさらなる磨き上げを行うとともに新たに観光資源を体験するプログラムを発掘・創設し宿泊客増に結びつけていくことと、各エリアの周遊性を高め、広域観光ルートの定着を図ることで滞在時間の延長を促進し、消費額を高め、地域経済の活性化を図っていく必要がある。

また、多客期には依然として交通渋滞が発生しているため、新東名高速道路、国道246号バイパス整備を見据え、新たな駐車場の設置及び公共交通機関と連携したパークアンドライドを促進し、受入体制の強化を図ることとする。

◇ 現状の課題

1 閑散期の集客と消費の停滞

神奈川県北西部に位置する丹沢・大山地域は、丹沢大山国定公園と県立丹沢大山自然公園に指定され、その豊かな自然環境と大山・日向、蓑毛地区などの貴重な歴史的資源を有する地域である。

しかし、首都圏近郊ではあるものの、宿泊客は最盛期に比べ減少しており、滞在時間の短い日帰り観光客が中心となっているため、観光消費額は停滞している。

さらに、特に大山地区では、年末年始、ゴールデンウィーク、秋の紅葉シーズンといった期間に観光客が集中し、閑散期にはピーク時の2～3割程度の観光客数となるなど、変動が大きく、また、雨天時は晴天時と比べ、観光客数に大きな差がある。

観光客数は増加傾向にあるものの、地域経済の活性化は急務である。

2 おもてなしの向上

より多くの観光客を迎え入れるためには、これまで培ってきたおもてなしの精神をさらに向上させ、国籍、年齢及び身体状況に関わらず誰しものが満足いただけるおもてなし（ホスピタリティ）の提供が必要である。

3 国内外への効果的な情報発信

地域の持つ魅力が多くあるにもかかわらず、情報発信の不足によって観光客にその魅力が十分に伝わっておらず、地域住民もその魅力に気づいていないことが多い。

また、国際観光地化にむけて、国内に限らず、国外に向けた強力でかつ効果的な情報発信も必要である。

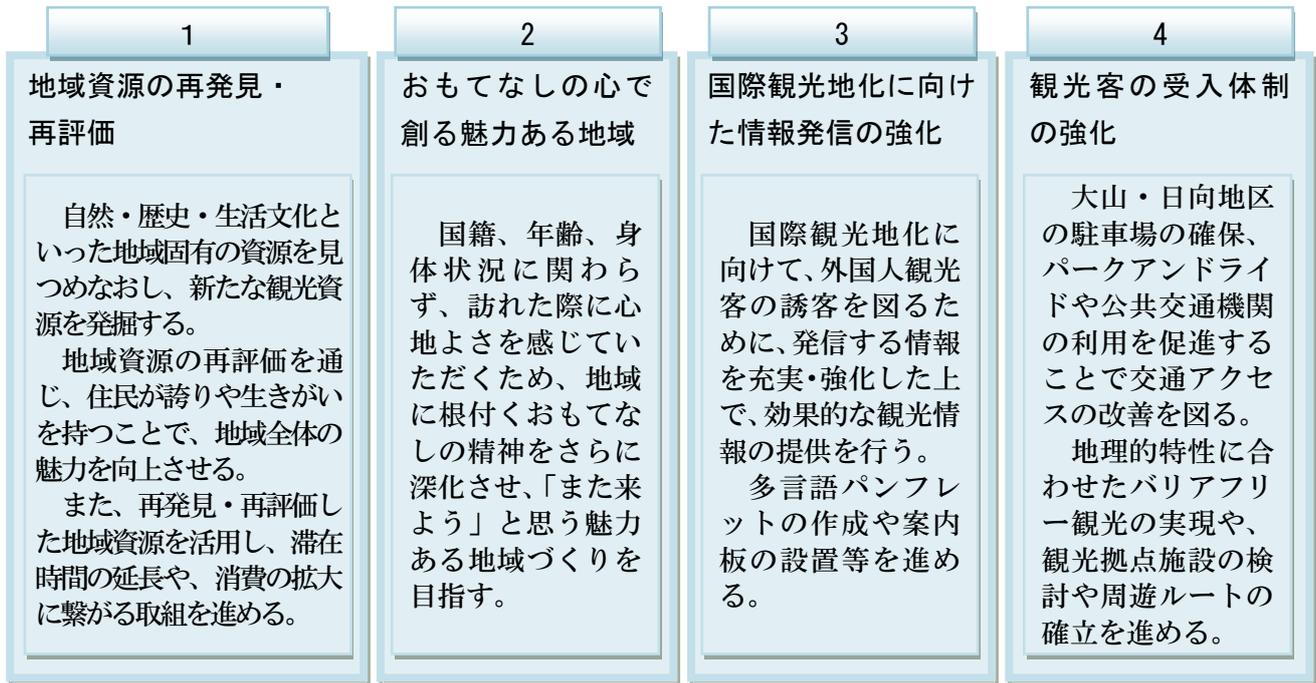
4 観光客の受入体制の改善

現在、新東名高速道路の（仮称）伊勢原北インターチェンジ供用開始及び全線開通に向けた整備や、国道246号バイパスの整備が進められており、交通条件の飛躍的な向上が予測されるが、観光客が集中するピーク時期には、大山地区や日向地区の駐車場が不足し、依然として渋滞を引き起こしている。

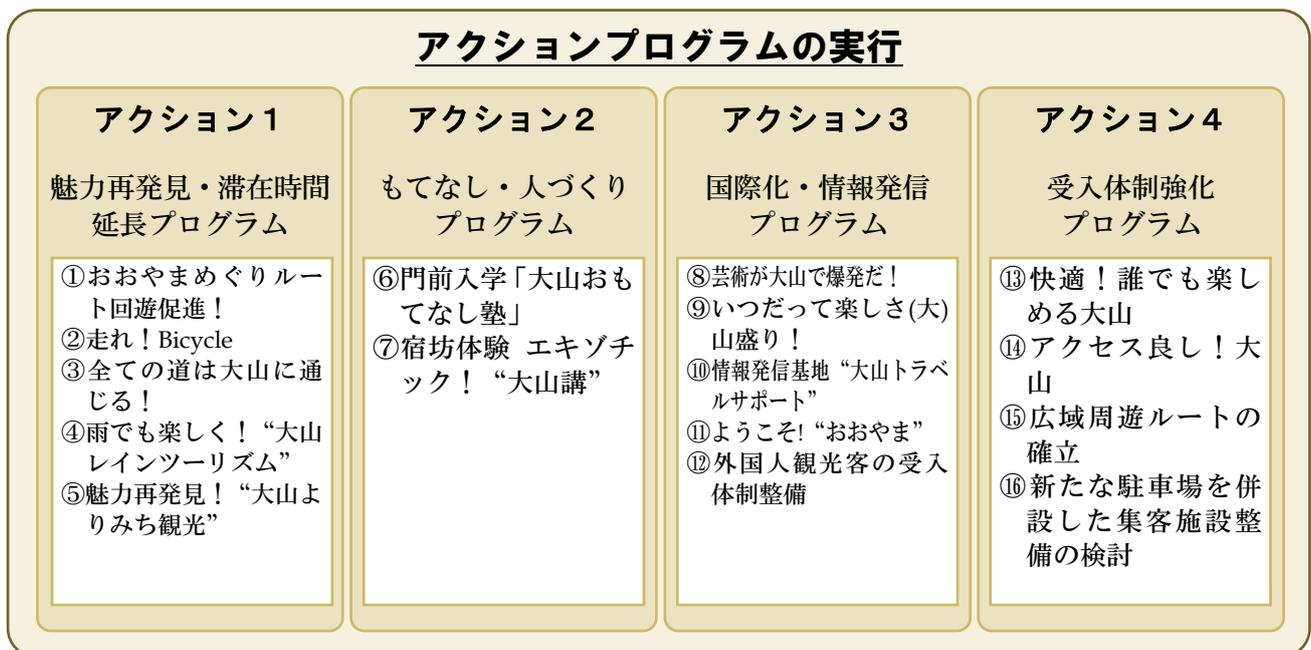
また、地理的な特性から、階段や坂がきつい箇所もあり、高齢者や体の不自由な方にとっては、「大山詣り」を困難なものにしている。誰でも大山を楽しむことができるバリアフリー観光を進めていく必要があるほか、訪れた観光客が立ち寄れる観光拠点づくりや、周辺の魅力ある観光地を誰もが楽しめるよう、周遊ルートの確保も必要となる。

当地域の主要資源である自然、歴史、生活文化を新たな観光の核とし、大山を中心とした各地域間の連携強化と地域主導による観光地再生が求められている。

◇ 課題の解決に向けて



アクションプログラムの実行



平成 34 年までに観光入込客数を 10 万人増やします

平成 29 年 113 万人 → 平成 34 年 123 万人

(大山・日向地区の観光入込客数)

◇ アクションプログラム

大山が持つ豊かな自然・癒しと、地域に息づく歴史・生活文化、そして活動（芸能・芸術）や施設（宿坊）といった地域固有の資源を活かしたアクションプログラムを実施する。

アクション1 魅力再発見・滞在時間延長プログラム

① おおやまめぐりルート回遊促進！

○ 事業目的

外国人も関心が高い「自然と歴史の体感」をキーワードに、豊かな自然とかつての山岳信仰、大山詣りの歴史を体感できる「おおやまめぐりルート」を活用し、糞毛地区～大山地区～日向地区～七沢地区及びその周辺地域の回遊性の向上を図る。

また、「おおやまめぐりルート」に若者のアイデアを取り入れることで、地域の新たな活力に結びつける。

○ 事業内容

これまでに作成したマップやアプリを活用し、「おおやまめぐりルート」をより広く周知するとともに、地域の高校生や大学生などの若い世代が大山を訪れ、ひらめいたアイデアを新しい観光アプリの活用策として事業化するアイデアソン※を実施し、さらなる普及を目指す。

※アイデアソン：「アイデア」と「マラソン」を掛け合わせた造語で、ある特定のテーマについて参加者がアイデアを出し合い、新たなアイデアの構築を短期間で行うもの。

○ スケジュール

H30年度	H31	H32	H33	H34
アイデアソンの実施・アプリ活用策の事業化	アプリを活用したイベントの実施	周知継続・拡充	周知継続・拡充	周知継続・拡充

② 走れ！Bicycle

○ 事業目的

大山周辺の地域において、自転車をはじめとしたイベントを開催し、新たな集客による入込客数の増加を図る。

○ 事業内容

自転車をはじめとしたロゲイニング※等のイベントを開催する。コース等の設定にあたっては、大山周辺の観光、歴史スポットを活用する。

※ロゲイニング：制限期間内できるだけ多くのログスポットを通過し、各スポットに配されているログポイントの合計を競うゲーム。

○ スケジュール

H30年度	H31	H32	H33	H34
イベントの実施	イベントの実施	効果検証	効果検証	効果検証

③全ての道は大山に通じる！

○ 事業目的

大山みち（街道）でつながる地域間相互の交流イベントを開催することで、交流人口の拡大とより広いエリアからの誘客を促進するとともに、大山みちがつなぐ街道文化の再生を図る。

○ 事業内容

「おおやまみち」まちづくりサミットを開催し、大山みちを中心にした地域間交流を進める。また、街道沿いの道標等の歴史解説を聞きながら、他地域の人々がともに江戸時代の古道に思いをはせるウォークイベントなどを開催する。

○ スケジュール

H30年度	H31	H32	H33	H34
サミットの開催	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続
ウォークイベントの実施	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続

④雨でも楽しく！“大山レインツーリズム”

○ 事業目的

雨を観光誘客のマイナス面にとらえず、積極的に活用することにより、「晴れても雨でも楽しめる大山」「雨だからこそ大山に行こう！」という来訪者を獲得するため、雨降山から『レインツーリズム』を発信しリピーターの増加を目指す。

○ 事業内容

レインツーリズムに係る地域資源を発掘し、コンセプトの磨き上げを図るとともに、浮世絵刷りなどの雨でも楽しめる体験観光プログラムの提供、プロモーション・キャンペーン等を継続的に実施する。

○ スケジュール

H30年度	H31	H32	H33	H34
キャンペーンの実施・体験メニューの増強	キャンペーンの実施・体験メニューの増強	地域化 実施継続	地域化 実施継続	地域化 実施継続

⑤魅力再発見！“大山よりみち観光”

○ 事業目的

大山地区などの観光地だけでなく、他地区も含め、それぞれの観光資源の再評価と磨き上げにより魅力を高め、それら各地区の誘客を結びつける取組により滞在時間を延長し、観光消費額アップを目指す。

○ 事業内容

「よりみち」をキーワードに「手書き地図」の作成・活用を通じ、地域主体により地域資源の再発見・評価を促す。

また、充電環境の整備支援によって安心して周遊でき、情報発信に繋がる環境づくりを進める。

○ スケジュール

H30 年度	H31	H32	H33	H34
手書き地図の作成・活用・キャンペーン等検討	手書き地図の作成・活用・キャンペーン等検討	地域化 実施継続	地域化 実施継続	地域化 実施継続
フリーチャージの拡充	拡充・周知強化	地域化 実施継続	地域化 実施継続	地域化 実施継続

アクション2 もてなし・人づくりプログラム

⑥門前入学「大山おもてなし塾」

○ 事業目的

観光従事者がきめ細かな「おもてなし」スキルを身に付け実践することで、リピーター客の増加につなげるために、「大山おもてなし塾」を開講する。特に、外国人観光客に対する接客能力の向上に重きをおいたプログラムを編成し、国際観光地「大山」の実現を目指す。

○ 事業内容

「大山おもてなし塾」を開講し、「おもてなし」スキルの向上に必要な各種プログラムを実施する。プログラムの内容は、おもてなしの基本から始まり、外国人観光客のための語学研修や地域の歴史・文化の知識向上、体験プログラムの実習などとする。

○ スケジュール

H30 年度	H31	H32	H33	H34
人材募集・講義・実習	地域化 実施継続	地域化 実施継続	地域化 実施継続	地域化 実施継続

⑦宿坊体験 エキゾチック！“大山講”

○ 事業目的

大山の先導師旅館ならではの宿坊体験を通じ、日本の歴史・伝統文化・精神を、国籍を問わず体感してもらうプログラムを設定することで、国内だけでなく海外からも観光客を誘客する。

○ 事業内容

日常生活から離れ、大山という豊かな自然を満喫できる環境で、座禅や浄書、豆腐づくりなどの体験や、大山の先導師旅館ならではの大山講の納太刀やみそぎ（滝行）といった大山詣り体験プログラムを用意し、新たな観光客を誘客する。

特に、「首都圏から近い宿坊」という好条件を活かして、東京近郊からの誘客や東京に教育旅行に訪れる中部・関西地方の中学校等をターゲットにPRを推進するほか、「美しい自然の中で神秘的な日本を体験する」というキャッチフレーズで、海外からの観光客の増加を目指す。

○ スケジュール

H30年度	H31	H32	H33	H34
宿坊体験実施 教育旅行受入体制づくり	教育旅行受入本格 実施	実施・継続	実施・継続	実施・継続

アクション3 国際化・情報発信プログラム

⑧芸術が大山で爆発だ！

○ 事業目的

かつて大山では、大山能の伝統継承として、全山あげて能楽祭が催されていたことから、「芸能・芸術の大山」を新しい形で昇華し、伝統と創造、そして和と洋の融合など、様々な視点から、大山の芸術を普及させ、魅力アップを図る。

○ 事業内容

古きよき伝統としての「火祭薪能」や、能舞台の幽玄な世界にジャズを融合させた大山サマージャズ&ラテンフレンドシップコンサート等を「大山石尊芸術祭」として盛り上げていく。

○ スケジュール

H30年度	H31	H32	H33	H34
火祭り薪能・大山 サマージャズの実 施	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続

⑨いつだって楽しさ（大）山盛り！

○ 事業目的

大山では既に多くのイベントが開催されていることから、それらの既存イベントと地域資源とのコラボレーションを工夫・強化することで、新たな経費をかけることなく、リピーター率を高める。

また、既存の観光イベントも充実・強化し、魅力あるイベントにブラッシュアップする。

○ 事業内容

大山紅葉ライトアップ、絵とうろうまつり、大山とうふまつりや大山パワースポットヨガなどの観光イベントの連携を図り、さらなる充実・強化を目指す。

また、平成 28 年の「山の日」制定を契機に、8 月 11 日を中心にした山の日イベントとして、民間の協力を得ながら新たな視点の集客イベントを実施していく。

○ スケジュール

H30 年度	H31	H32	H33	H34
山の日・夜景イベントの実施	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続
大山パワースポットヨガ	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続
大学と連携した事業の実施	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続

⑩情報発信基地 “大山トラベルサポート”

○ 事業目的

インターネットを通じた情報発信の充実により、国内だけではなく海外のインターネット利用者から新たな観光客を捉え、また、マスメディアの活用による「丹沢・大山を知る」機会の創出や、大山を訪れた人が歴史・文化遺産に触れることのできる施設の設置を目指す。

○ 事業内容

おおやまポータルサイトやスマートフォンサイト“大山トラベルサポート”を活用し、大山に関する情報の発信を強化する。特に、外国人の観光客を獲得するために、アプリや SNS など、その他の媒体とも連携した情報の発信に努め、マスメディアに取り上げられるような話題性のある情報を集約し、適時に発信する。

また、大山地区での(仮称)歴史資料館の整備について検討を進める。

○ スケジュール

H30 年度	H31	H32	H33	H34
普及促進・掲載情報の充実	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続
(仮称)歴史資料館のあり方検討	(仮称)歴史資料館のあり方検討	(仮称)歴史資料館のあり方検討	整備実施	整備実施

⑪ようこそ！ “おおやま”

○ 事業目的

到着してから旅を終えるまで、ワクワク感を持って地域内を不自由なく移動し観光を満喫できるように、観光ガイドに関する多様なツールの導入・提供により、新規顧客の獲得とリピート率の上昇を目指す。

○ 事業内容

駅到着時からお客様に WELCOME を感じていただくため、伊勢原駅北口において、着ぐるみでのお迎えなどの演出を引き続き実施するとともに、Wi-Fi の整備拡充による情報発信の強化や、充電環境の整備支援によって安心して周遊でき、情報発信に繋がる環境づくりを進める。

【関連プログラム】

⑥目指せ！ “大山よりみち観光”

○ スケジュール

H30 年度	H31	H32	H33	H34
FREEWi-Fi・フリーチャージの拡充	拡充・周知強化	地域化 実施継続	地域化 実施継続	地域化 実施継続
その他ツールの導入検討（順次事業化）	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続

⑫外国人観光客の受入体制整備

○ 事業目的

国際観光地 大山を目指し、外国人観光客の受入体制の整備を進める。

○ 事業内容

外国人観光客の受入体制の整備として、多言語観光パンフレットの作成や案内板（駅、バス停、観光スポット）の整備、飲食店や宿泊施設等の看板や商品メニューの外国語併記の促進、外国語ホームページ開設、外国語案内ガイドの養成をすすめる。

○ スケジュール

H30 年度	H31	H32	H33	H34
多言語観光パンフレットの作成	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続
観光案内サインの拡充検討	観光案内サインの設置	実施・継続	実施・継続	実施・継続
外国語による観光案内	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続

アクション4 受入体制強化プログラム

⑬快適！誰でも楽しめる大山

○ 事業目的

バリアフリー観光に向けたハード・ソフト面の整備により、誰でも快適に楽しめる大山を目指す。

○ 事業内容

高齢者や障がいのある方にとって移動が困難な参道・登山道について、バリアフリー機能整備等の検討やトイレの改修・増設など、地域全体のバリアフリー化を目指す。

○ スケジュール

H30 年度	H31	H32	H33	H34
参道・登山道の整備の検討	参道・登山道の整備の検討	参道・登山道の整備	実施・継続	実施・継続
バリアフリー化の検討	バリアフリー化の検討	バリアフリー化可能箇所から随時実施	実施・継続	実施・継続
公衆トイレの改修増設検討・維持管理	公衆トイレの改修増設検討・維持管理	実施・継続	実施・継続	実施・継続

⑭アクセス良し！大山

○ 事業目的

公共交通機関を利用した観光客を増やすことで、マイカーによる渋滞の軽減に繋げるとともに、駐車場を整備することで、多くの観光客を受け入れる体制を作る。

○ 事業内容

公共交通機関の利用を促すキャンペーンに連動し、輸送力増強による利便性向上を図るとともにパークアンドライドを拡充し、渋滞解消を図る。

また、慢性的に不足している大山地区及び日向地区の駐車場について、新東名高速道路の（仮称）伊勢原北インターチェンジ供用開始及び全線開通、国道 246 号バイパスの開通を見据え、今後さらに観光客が増加しても受け入れることが可能となるよう、民間事業者による整備の促進や支援なども視野に入れ、新東名の高架下利活用や、観光客向けの駐車場情報、交通情報を把握できるシステム・設備の整備を進めていく。

○ スケジュール

H30 年度	H31	H32	H33	H34
キャンペーン実施・輸送力増強	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続
臨時駐車場設置・シャトルバス運行	実施・継続	実施・継続	実施・継続	実施・継続
交通情報提供システム整備・満空表示板設置	運用・継続	運用・継続	運用・継続	運用・継続
駐車場整備の検討	駐車場整備の検討	駐車場整備の検討	駐車場整備・実施	実施継続

⑮広域周遊ルートの確立

○ 事業目的

大山へ訪れた観光客の秦野市や厚木市への回遊性を高めるとともに、広域エリアとしての相乗効果による魅力向上を図ることにより観光客の増加を図る。

○ 事業内容

大山から秦野市の鶴巻温泉への直通バス運行の事業化に向けた実証実験や、大山エリアと宮ヶ瀬エリアの結節点である厚木市において、観光客の回遊性を高める方策の事業化に向けた検討、研究を進める。

○ スケジュール

H30 年度	H31	H32	H33	H34
実証実験を踏まえた評価 本格運行計画の 検討	広域連携による 体験プログラムの 検討・開発・実 施	広域連携による 体験プログラムの 検討・開発・実 施	広域連携による 体験プログラムの 検討・開発・実 施	広域連携による 体験プログラムの 検討・開発・実 施
実用的な方策の 検討・研究	実用的な方策の 検討・研究	実用的な方策の 検討・研究	実用的な方策の 検討・研究	実用的な方策の 検討・研究

⑯新たな駐車場を併設した集客施設整備の検討

○ 事業目的

新東名高速道路の（仮称）伊勢原北インターチェンジ供用開始及び全線開通や厚木秦野道路の開通による交通アクセスの飛躍的な向上に合わせて、新たな駐車場の整備を進め、パークアンドライドの促進を図るとともに、当該駐車場を拠点とする集客施設の整備を検討する。

○ 事業内容

（仮称）伊勢原北 IC の周辺に、パークアンドライドの拠点となる大型駐車場の整備を進め、併設する新たな集客施設の整備を検討する。

○ スケジュール

H30 年度	H31	H32	H33	H34
集客施設整備の 検討・研究	集客施設整備の 検討・研究	集客施設整備の 検討・研究	集客施設整備の 検討・研究	運用

■事業実施に係る費用について

事業の実施にあたっては、既存のイベントを活用するとともに、新たな取組みについては、民間資金の導入だけではなく、民間事業者の参入促進や行政との協働などさまざまな手法の導入を検討し、進めていく。

なお、民間事業者が実施している既存事業については、事業を継続するとともに、さらに効果をあげるため関係機関との連携強化などの取組みを進める。

＜プロジェクト実施にあたっての事業費概算（平成 30 年度～平成 34 年度）＞

（千円）

アクションプログラム	事業費
アクション1 魅力再発見・滞在時間延長プログラム	30,000
アクション2 もてなし・人づくりプログラム	5,000
アクション3 国際化・情報発信プログラム	35,000
アクション4 受入体制強化プログラム	50,000
合 計	120,000

（民間事業者の実施プログラムを除く）

※ 上記事業費は現時点での概算であり、今後、新たな取組みの追加等により変動する。

※ 民間事業者が主体となって実施する事業については、当該事業者の予算において執行をする（上記事業費概算には含まない）。

◇ 推進体制

地域団体、企業、大学、行政など関係者が協力・連携しながら進めることを基本とし、事業調整を図るため平成大山講プロジェクト推進協議会を設置する。

なお、事業実施にあたっては、アクションプログラムごとに事業主体の役割を明確にし、関係機関が連携して事業に取り組む。

平成大山講プロジェクト推進協議会

地域団体・ 企業	大山観光振興会、小田急電鉄（株）、神奈川中央交通（株）、大山観光電鉄（株）、（一社）伊勢原市観光協会、（一社）秦野市観光協会、厚木市観光協会、伊勢原市商工会、秦野商工会議所、JAいせはら、JAはだの、(株)横浜銀行
大学	産業能率大学、東海大学
行政	神奈川県、伊勢原市、秦野市、厚木市

平成 25 年 5 月 基本計画策定

平成 26 年 6 月 一部改定

平成 30 年 4 月 改定